

■ (75) 子ども新聞からもらう勇気と希望

宮城県気仙沼市の避難所で子どもたちが発行していた手書きの「ファイト新聞」が復活したと聞いた。第1号の編集作業は震災4日後。大人の新聞は暗い記事ばかりと、明るい話題だけを載せた。避難所解消などに伴い昨夏に一時休刊したが、最近になって復刊したそう。編集方針は今も変わらない。大人の記者も勇気づけられてくれる新聞だ。

同じく震災を題材にした小中学生の新聞を集めたコンクールを朝日新聞などが企画した。新聞作りを通して、復興と向き合う子どもたちを後押ししたいとの狙いで、全国190校から500点の応募があった。受賞した被災地の小学校の児童は「自分よりもつらい思いをしている人はたくさんいる。今後も復興に携わりたい」とあいさつした。

被災地の子らは、将来の地元の復興の力になりたいとよく取材に語る。都会から見れば、被災地の大半は「過疎地」かもしれない。だが、生まれ育った地を愛する気持ちは人一倍強い。そんな子らと、応援する全国の子らがいるなら、被災地は必ず復興できるはずだ。(山)